

M O N T H L Y

vol.45

U P

国際ルール、ISO。

地球からのSOSが きっかけでした。 ISO14000シリーズ。

駅前のコンビニから、グローバルに事業を展開するメーカーまで。
広く一般的に認められ、取得されるようになったISO。今回は環境の規格ISO14001をご紹介します。

緑色に光る「非常口」のマークは、世界で統一されたデザインです。しかし、この表示がもし世界各国で違っていたら…。火災などに巻き込まれた際、その国の人以外は非常口がわからずに、逃げ遅れてしまうということがあるかもしれません。ISOは世界共通ルールを決め、各国間の製造や通商、コミュニケーションの発展を促すことを第一の目的とした組織です。1947年ジュネーブで産声をあげ、今では147ヶ国が参加しています。ISOはInternational Organization for Standardizationを略したもので、日本では国際標準化機構と呼ばれています。ところで略称が「IOS」ではなく「ISO」なのは、何だかへんだと思いませんか？ その理由は、ギリシャ語で平等や標準を意味する言葉「isos」にちなんでつけられたためだとか。

温暖化やオゾン層破壊など、環境問題に対する世界共通の保護政策を求める声が高まる中、1992年、ブラジルのリオで地球サミットが開催されました。このサミットでは、子孫たちに豊かで明るい地球環境を残そうと、「アジェンダ21(21世紀に取り組む課題)」が採択されたのです。そしてこれをフォローする目的で、1996年ISO14000シリーズ(環境マネジメントシステム規格)が誕生します。

ISO14000シリーズを構成する規格には、さまざまなものがありますが、認証取得対象となる規格はISO14001だけ。このISO14001は、環境マネジメント

システムをどのように構築すれば良いかを定めた仕様書で、シリーズの中核を担います。

環境マネジメントとはゴミや電気、CO2の削減といった具体的な施策のことではありません。それぞれの事業者がその活動の中で、環境にどのような影響を与えているかを把握し、保護につながることを考え(Plan)、実行し(Do)、結果を検証(Check)、そして次の手を打つ(Action)という仕組みのことです。これはPDCAサイクルと呼ばれ、継続的に続けていくことで目的達成に近づけていく手法です。ISO14001に法的な拘束力はなく、数値目標があるわけでもありません。各事業者が自ら設定した環境方針を、それぞれの方法で取り組むことをねらったものなのです。

ルールを決めて、その通りに実行することがISOの基本。システムを作っても、帳じり合わせでは認証されません。結果はもちろん、そのプロセスも重要視されるのです。日本において現在、約18,000の事業所がISO14001の認証を受け、環境ルールを守っています。普段見慣れたISOの認証マークも、各事業者の継続的な努力の証なのです。

20世紀から21世紀に持ち越された課題のひとつ、環境問題。各個人や事業所といった身近な所からの取り組みが、この問題に対処する最適な方法ではないでしょうか。





<http://www.sezax.co.jp>

本社・工場	〒146-0091 大田区鶴の木2-9-7	TEL 03(3758)2511(代)	FAX 03(3758)2754	
		営業専用	FAX 03(3758)2544	
渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL 03(3400)9211(代)	FAX 03(3409)7315	
		5F	TEL 03(3400)9401(代)	FAX 03(5468)9253
マニュアル企画部	〒146-0091 大田区鶴の木2-9-7	TEL 03(3758)2591(代)	FAX 03(5482)2777	
下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL 03(3758)2516(代)	FAX 03(3758)8850	

株式会社セザックスクリエイティブ	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F	TEL 03(3409)4970(代)	FAX 03(3409)2732
株式会社セザックスインターナショナル	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F	TEL 03(3409)0527(代)	FAX 03(3409)6610



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。

この小冊子は再生紙を使用しています。